

令和5年10月号(No251)

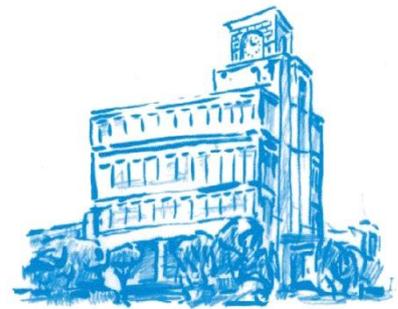
エビデンスに基づく授業改善を

～全国学力・学習状況調査から考える個別最適な学び～

伊丹市立総合教育センター

所長 山下 拓志郎

授業において最も大切なことは何だと思えますか。「本物の教師は子どもの心に火をつける」と言われるように、子どもたちが自ら意欲的に取り組むことです。また、授業が楽しいことです。教師は、子どもたちの学ぶ姿を振り返りながら授業力の向上に取り組んできました。子どもたちのリアルな反応に加え、大切なのが「全国学力・学習状況調査」などから得られる客観的なデータです。



「令和5年度全国学力・学習状況調査」においては、小学校で63問、中学校で80問の学習状況に係る質問が実施されました。

学校として大切な視点は、各学校が研究等で取り組んでいる項目が改善されているかという視点です。自校の子どもたちの課題改善は、C(Check)即ち、現状を直視することから始まるのです。

学年として大切な視点は、調査対象学年であれば、次の校種やステージに「つなげる視点」です。例えば小学6年生では、中学校で学ぶための確かな土台が築かれているかといった視点で質問を分析します。対象学年以外では、どこに「つまずきが見られるか」といった視点です。例えば「勉強が好きか」という質問に課題が見られたら、教科における「ものの見方や考え方が、積み上げて来られなかったことが考えられます。子どもたち一人ひとりの資質・能力を担任だけではなくチームとして育てることが大切です。

本来、「課題」は、自身の力で乗り越えてこそ本物の力となるのですが、そのための教師の役割は何か。客観的なデータ(エビデンス)をもとに、一人ひとりの子どもに伴走しながら、「個別最適な学び」を通じて、子ども自身が課題を克服できる力をつけるための支援です。課題への直接的な指導をぐっと堪え、子どもたちが自分の頭で考えられる「主体的・対話的で深い学び」の実践が大切なのです。

児童生徒質問紙からみえてくる成果と課題

新たな教育振興基本計画（令和5年6月16日）が閣議決定されました。その中で、一人一人の多様なウェルビーイングの実現のためには、「今後5年間の教育政策の目標と基本施策」として「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」、「新しい時代に求められる資質・能力を育む学習指導要領の実施」等と並び、「全国学力・学習状況調査の実施・分析・活用」について明記されています。そこでは、「教育施策の成果や課題を把握・分析し、結果を活用することにより、教育施策の改善、及び教育指導の改善・充実を図る」とされています。今月は「各学校の成果と課題」を捉えるための「児童生徒質問紙」の見方についてお伝えします。

各校において取り組んでいる

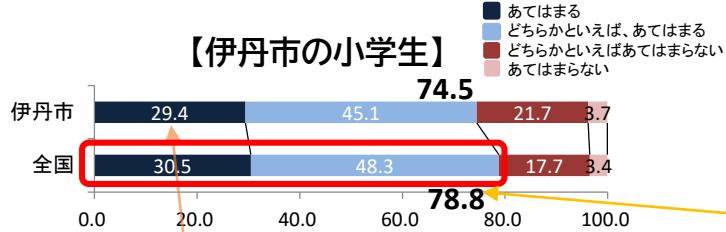
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

が進んでいるかをチェックする場合は

「主体的な学び」について

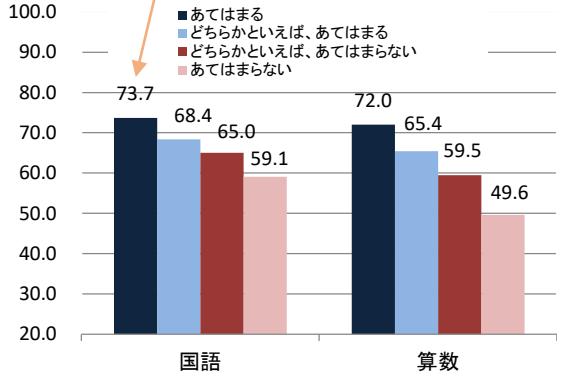
見方その1

全国平均との比較からの視点



質問に対する回答別の児童の正答率を表している
例) 小学校において、「あてはまる」と回答した児童は29.4%であり、その児童らの平均正答率は73.7%であった

学力との相関

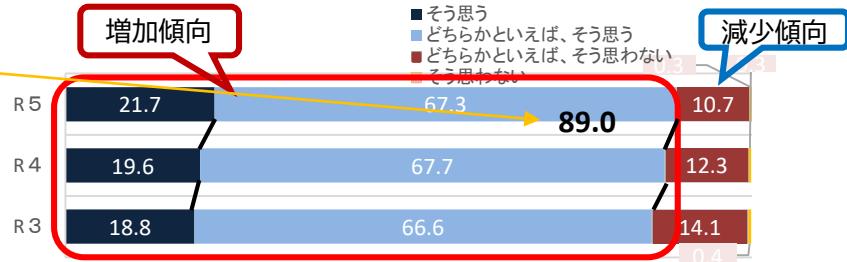


学習指導要領に沿った授業改善が全国的に進められている中、自校の進捗を客観的に把握できます。また、学力との相関関係が示されていることから子どもたちに付けたい確かな学力についても、授業の視点から見直すきっかけにすることができます。

見方その2

児童生徒と教員との比較からの視点

【全国の学校質問紙 調査結果】(小学校)



※【令和5年 全国学力・学習状況調査の結果】データをサンプルとして取り上げています。各学校で同様のデータを分析してみましょう

全国学力・学習状況調査結果チャートや学校評価、各学校独自で行っている「教職員アンケート」等を活用し、子ども達と教職員それぞれが感じている「主体的な学び」がしっかりと一致しているかを確認しましょう。

子どもの視点を大切にしながら授業改善に向けて質問紙を活かすことが大切です



見方その3

自校の経年変化からの視点

【伊丹市の小学生】



『「あてはまる」に着目する』
あるいは
『「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の肯定的な意見に着目する』など、いくつかの見方が想定されます。

※伊丹市のデータをサンプルとして取り上げています。各学校で同様のデータを分析してみましょう

経年で自校のデータを比較することで、調査対象の子ども達が変わっても、学校としての取組の進捗が客観的に把握できます。肯定的評価が増加していれば、更に取組を推進し、そうでなければ取組内容の改善・修正を検討していきましょう。

「主体的な学び」について

令和5年度 児童質問紙 (33)
生徒質問紙 (37)

※校種が異なっても質問項目は同じ

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

※全ての学年・教科が対象

令和5年度 児童質問紙 (34)
生徒質問紙 (38)

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

「個別最適な学び」

令和5年度 児童質問紙 (35)
生徒質問紙 (39)

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

これらの項目について
しっかり見直して
いきましょう

「対話的な学び」

令和5年度 児童質問紙 (32)
生徒質問紙 (36)

5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

令和5年度 児童質問紙 (36)
生徒質問紙 (40)

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

これらの質問項目に対する取組を学校全体で実施しているにも関わらず、結果が伴っていない場合

子どもたちにメタ認知させることも重要です。平素の授業において単に振り返りをさせるよりも一言、「今日の授業でどんな工夫をしたの?」「あなたの振り返りはこの部分がとってもわかりやすいね」など、「内容の肯定」や「深めること」を大切にしていきましょう。



学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

- 昨年度までと同様、各学校において、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組が実施されている。また、主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。
- 昨年度までと同様、個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びに関する取組が実施されている。
- 授業の中で、主体的・対話的で深い学びに取り組んだ児童生徒は、家庭の社会的・経済的背景が低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。



国立教育政策研究所 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果 より

発行 伊丹市立総合教育センター
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番
TEL 072-780-2480
FAX 072-780-2482
開館日 月・火・木・金 : 9:00~21:00
水・土 : 9:00~17:00
休館日 日曜・祝日、年末・年始
総合教育センターHP <https://www.itami.ed.jp/>

<教育相談>
電話 072-772-6171 (電話相談)
072-780-2484 (来所相談)
お子様に関する様々な悩みや課題、
問題等の相談に応じています。
(来所・電話相談)
月・火・木・金 : 9:00~18:00
水・土 : 9:00~17:00

令和5年度連載 (ICT活用事例集)

第7回 school Takt 「『グループ課題』機能の活用」

ねらい

特定の子どもの学習シートに班員が参加する「共同編集」ではなく、班員で新たな学習シートを作成するため、従来の班学習に近い協働的な学びの場が設定できる。

活用効果

グループ課題でも、通常課題と同様に課題モード（共同作業Off、共同閲覧モード、共同編集モード）の切り替えができ、必要に応じて、子ども同士の「考えの共有」を行うタイミングをコントロールできるため、学びあいを促すことができる。

